

- ・ **デング熱**の報告が2例(ともに60歳代男性)あります。いずれも感染地域は国外(フィリピン)で、感染経路は蚊媒介です。本年の初めての報告です。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が1例(60歳代男性)あり、感染地域は国内です。本年の累積報告数は21例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が4例(40歳代及び50歳代男性各1例、20歳代女性2例)(第9週追加報告分1例含む)ありました。本年の累積報告数は14例となりました。  
梅毒は早期の薬物治療で完治できますが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置すると、脳や心臓に重い合併症を引き起こす危険があります。感染予防のために、性行為時にはコンドーム等を適切に使用しましょう。性器や口腔周囲に異変を感じたら、性行為を控え、速やかに医療機関に相談し、早期発見・早期治療することが重要です。
- ・ **風しん**の報告が1例(30歳代男性)あり、感染地域は国内です。本年の累積報告数は8例となりました。
- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は、前週の4.25(293例)から2.32(160例)に減少しました。

## ◆ 今週のトピックス: <結核>

3月24日は世界結核デーです。これにちなみ、世界及び本市の平成29年までの結核の状況についてまとめました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 10例(肺結核 4例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者4例)うち喀痰塗抹陽性 3例  
【1月以降の累積報告数 56例(肺結核 21例, その他結核 11例, 潜在性結核感染者 24例)うち喀痰塗抹陽性 12例】
- ・ 四類: デング熱 2例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 21例】
- ・ 五類: 梅毒 4例【1月以降の累積報告数 14例】
- ・ 五類: 風しん 1例【1月以降の累積報告数 8例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	2. 32	160
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5. 30	228
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 95	41
	③ 伝染性紅斑	0. 70	30
	④ 突発性発しん	0. 35	15
	⑤ 水痘	0. 23	10
眼科	流行性角結膜炎	0. 10	1

## 【次ページ以降の主な内容】

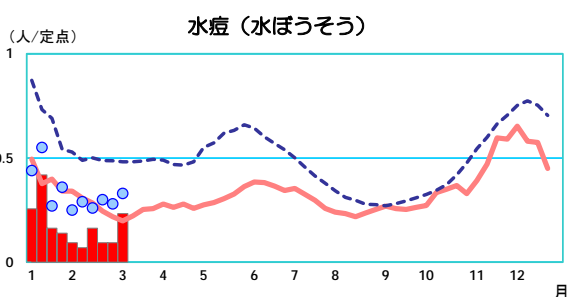
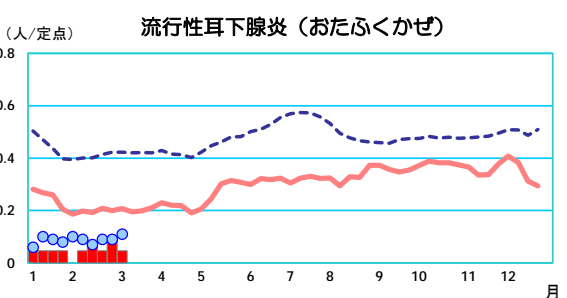
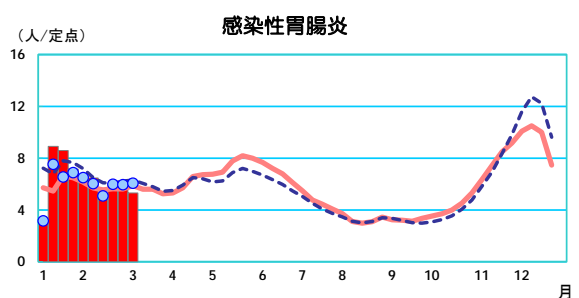
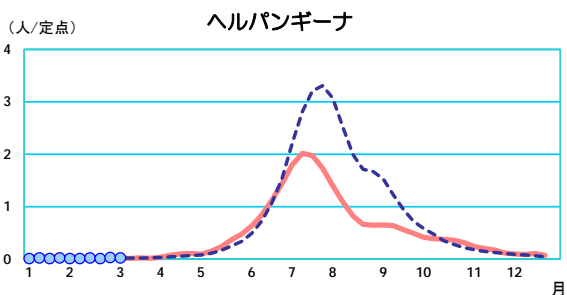
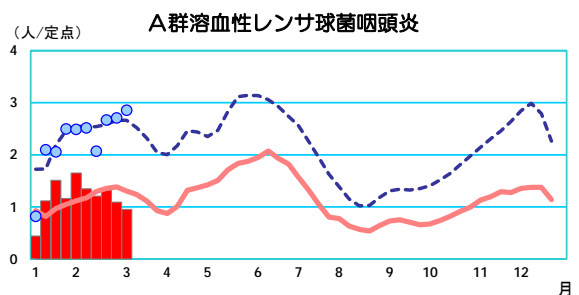
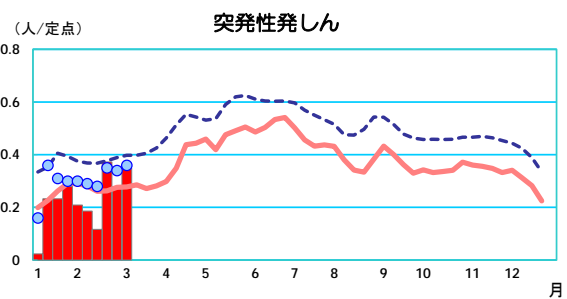
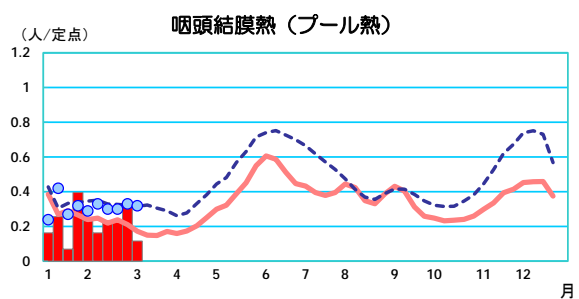
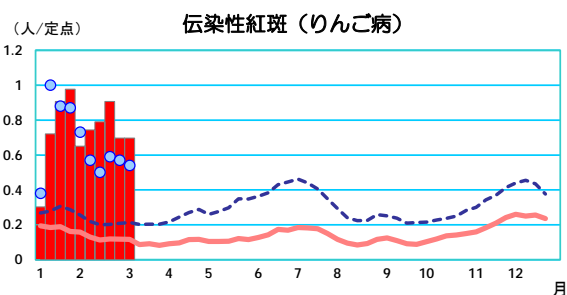
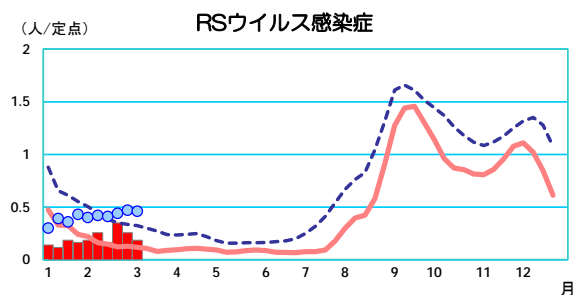
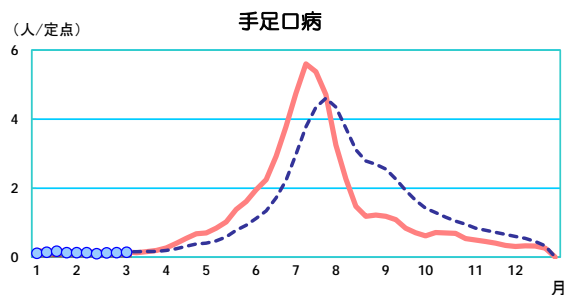
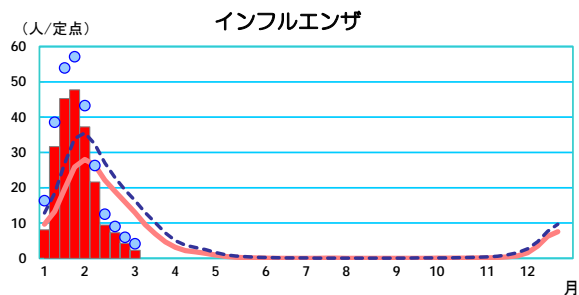
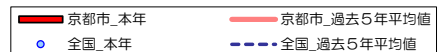
発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <結核>

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年3月13日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第10週(3月4日～3月10日)トピックス: <結核>

3月24日は世界結核デー(※1)です。今年のテーマは“*It’s Time*”で、「今がその時」といった意味です。これにちなみ、世界及び本市の平成29年までの結核の状況についてまとめました。

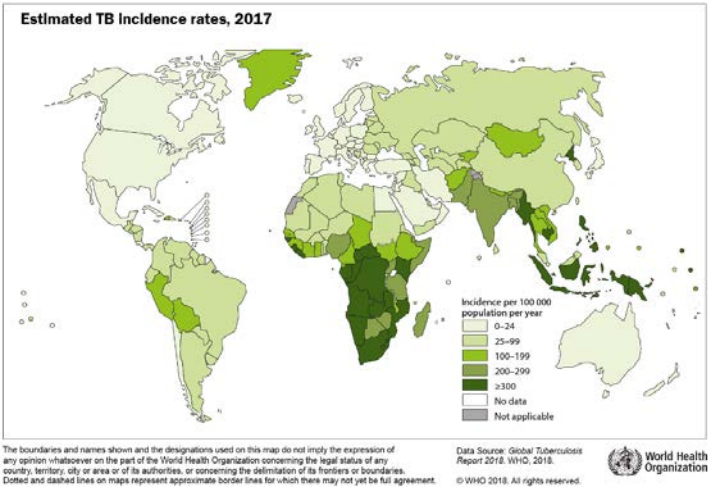
WHOによると、平成29年に世界で新たに結核を発病した人が年間1,000万人、結核で亡くなった人が130万人と報告されています(※2)。主に発展途上国で結核罹患率(人口10万対)が高く(図1)、多くの先進国では低まんに延国の水準である10を下回っています(表1)。一方、日本は結核罹患率が13.3となっており、先進国の中では高い値を示しています。

本市の平成29年の結核罹患率は16.0で、前年の16.7から0.7ポイント減少しました。依然、全国の13.3と比較して高値を示しています(図2)。年齢階級別の比率では、平成28年に比べ、59歳以下で増加し、60歳以上では減少しました(表2)。

結核の主な感染経路は気道を介した飛沫核感染であることから、患者の早期発見・早期治療が重要です。このことは本人の重症化を予防するだけでなく、周囲への感染拡大を防ぐことになります。特に抵抗力の弱い乳幼児への感染は、大半が家族等の身近な患者からの感染と言われています。咳が2週間以上続く、急に体重が減る、身体がだるい等の症状があれば、医療機関を速やかに受診しましょう。

(※1) 1882年に細菌学者ロベルト・コッホが結核菌を発表した日にちなみ、1997年の世界保健総会で制定されました。  
(※2) WHO: Global Tuberculosis Report 2018 p.1 ([https://www.who.int/tb/publications/global\\_report/tb18\\_ExecSum\\_web\\_4Oct18.pdf](https://www.who.int/tb/publications/global_report/tb18_ExecSum_web_4Oct18.pdf) 2019年3月13日閲覧)

(図1) 平成29年推定結核罹患率(※1)

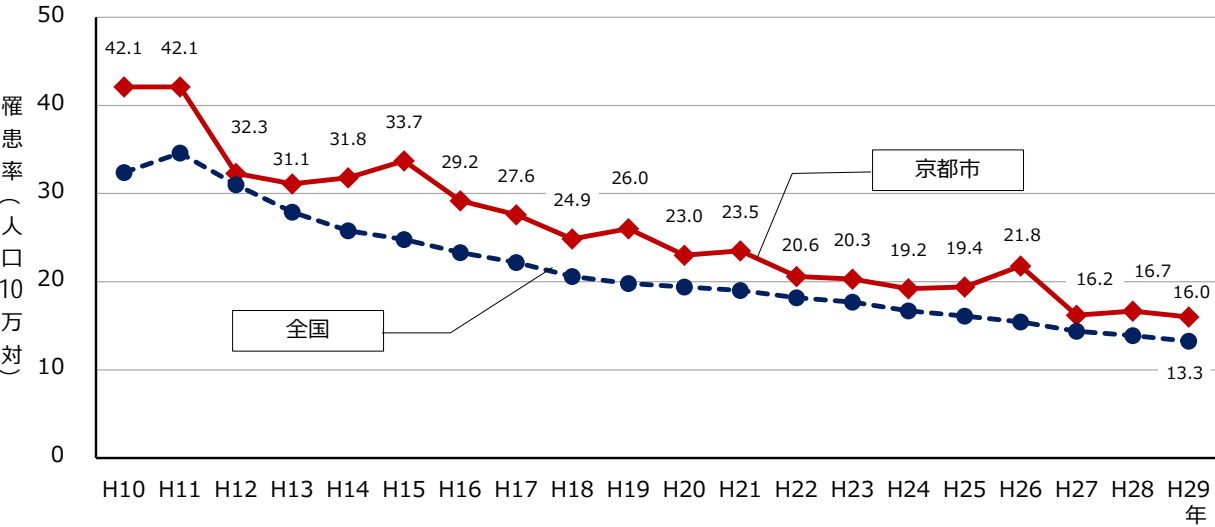


(表1) 諸外国と日本の結核罹患率(※2)

国名	罹患率	年次
米国	3.1	2017
デンマーク	5.1	2017
オランダ	5.2	2017
カナダ	5.5	2017
スウェーデン	5.7	2017
オーストラリア	6.8	2017
イタリア	7.4	2017
ドイツ	7.5	2017
英国	8.9	2017
フランス	9.0	2017
日本	13.3	2017

諸外国のデータはGlobal Tuberculosis Control WHO Report 2018 より

(図2) 京都市および全国における過去(平成10年～平成29年)の結核罹患率(人口10万対)の推移



(表2) 京都市の罹患患者における年齢階級別の比率(平成29年)

0～29歳	6.0%	前年 4.5%から1.5↑
30～59歳	20.0%	前年16.7%から3.3↑
60歳以上	74.0%	前年78.9%から4.9↓

(※1) WHOホームページより引用  
[http://gamapserver.who.int/mapLibrary/Files/Maps/Global\\_HIV\\_prevalence\\_New\\_Relapse\\_TBcases\\_2017.png](http://gamapserver.who.int/mapLibrary/Files/Maps/Global_HIV_prevalence_New_Relapse_TBcases_2017.png) (平成31年3月13日閲覧)  
(※2) WHOホームページ  
[https://www.who.int/tb/publications/global\\_report/en/](https://www.who.int/tb/publications/global_report/en/)よりWHO TB burden estimates(CSVファイル)を入手し加工(平成31年3月13日入手)

T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第10週

疾病,行政区別報告数

2019年3月4日～2019年3月10日

データ入手日:2019年3月13日

	インフル エンザ (※1)	R S ウィルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺炎	クラ ミ ジ ア 肺炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)
男女合計																		
北	10	1	-	1	5	-	-	-	1	-	-	-	-					
上京	4	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-					
左京	19	1	-	3	30	-	-	1	5	1	-	-	-					
中京	19	-	1	4	14	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	8	1	-	-	13	-	-	-	-	-	-							
山科	13	1	-	2	4	1	-	7	2	-	1	-	1					
下京	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-							
南	21	-	-	6	34	-	-	3	-	-	-							
右京	20	1	1	7	37	2	-	4	-	-	1	-	-					
伏見	32	1	3	8	60	5	2	5	5	1	-	-	-					
西京	13	1	-	9	29	2	-	9	1	-	-	-	-					
京都市計	160	8	5	41	228	10	2	30	15	3	2	-	1	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ (※1)	R S ウィルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺炎	クラ ミ ジ ア 肺炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)
男女合計																		
北	1.43	0.25	-	0.25	1.25	-	-	-	0.25	-	-	-	-					
上京	0.80	0.33	-	0.33	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-					
左京	2.71	0.25	-	0.75	7.50	-	-	0.25	1.25	0.25	-	-	-					
中京	3.80	-	0.33	1.33	4.67	-	-	0.33	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	2.67	0.50	-	-	6.50	-	-	-	-	-	-							
山科	1.86	0.20	-	0.40	0.80	0.20	-	1.40	0.40	-	0.20	-	1.00					
下京	0.33	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-							
南	4.20	-	-	2.00	11.33	-	-	1.00	-	-	-							
右京	2.50	0.20	0.20	1.40	7.40	0.40	-	0.80	-	-	0.20	-	-					
伏見	2.91	0.14	0.43	1.14	8.57	0.71	0.29	0.71	0.71	0.14	-	-	-					
西京	1.63	0.20	-	1.80	5.80	0.40	-	1.80	0.20	-	-	-	-					
京都市計	2.32	0.19	0.12	0.95	5.30	0.23	0.05	0.70	0.35	0.07	0.05	-	0.10	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第10週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年3月4日～2019年3月10日

データ入手日:2019年3月13日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	160	－	2	4	4	4	5	11	13	7	5	9	32	8	10	10	16	5	4	6	5
RSウイルス感染症	年齢3	8	6	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		5	－	－	－	2	2	－	－	－	1	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41	1	－	1	4	7	1	5	7	1	6	3	5	－	－						
感染性胃腸炎		228	1	13	29	29	28	21	17	21	10	6	10	27	2	14						
水痘		10	1	－	－	1	1	1	3	－	－	1	－	2	－	－						
手足口病		2	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝染性紅斑		30	－	－	2	4	3	8	3	4	1	1	2	2	－	－						
突発性発しん		15	－	4	9	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		3	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1						
流行性耳下腺炎		2	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		1	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	2.32	－	0.03	0.06	0.06	0.06	0.07	0.16	0.19	0.10	0.07	0.13	0.46	0.12	0.14	0.14	0.23	0.07	0.06	0.09	0.07
RSウイルス感染症	年齢3	0.19	0.14	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		0.12	－	－	－	0.05	0.05	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.95	0.02	－	0.02	0.09	0.16	0.02	0.12	0.16	0.02	0.14	0.07	0.12	－	－						
感染性胃腸炎		5.30	0.02	0.30	0.67	0.67	0.65	0.49	0.40	0.49	0.23	0.14	0.23	0.63	0.05	0.33						
水痘		0.23	0.02	－	－	0.02	0.02	0.02	0.07	－	－	0.02	－	0.05	－	－						
手足口病		0.05	－	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝染性紅斑		0.70	－	－	0.05	0.09	0.07	0.19	0.07	0.09	0.02	0.02	0.05	0.05	－	－						
突発性発しん		0.35	－	0.09	0.21	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.07	－	－	0.02	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	0.02						
流行性耳下腺炎		0.05	－	－	－	－	－	0.02	－	－	－	0.02	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.10	－	－	－	－	－	－	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第10週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年3月13日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	2,568	1,493	652	500	293	160
RSウイルス感染症	8	11	7	15	11	8
咽頭結膜熱	10	7	10	10	14	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	71	58	52	57	47	41
感染性胃腸炎	282	278	213	259	249	228
水痘	4	3	7	4	4	10
手足口病	2	3	3	3	5	2
伝染性紅斑	28	32	34	39	30	30
突発性発しん	9	8	5	16	12	15
ヘルパンギーナ	-	3	-	-	1	3
流行性耳下腺炎	-	2	3	2	4	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	2	3	1	2	1
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	2,983	1,900	989	906	672	505

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	37.22	21.64	9.45	7.25	4.25	2.32
RSウイルス感染症	0.19	0.26	0.16	0.35	0.26	0.19
咽頭結膜熱	0.23	0.16	0.23	0.23	0.33	0.12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.65	1.35	1.21	1.33	1.09	0.95
感染性胃腸炎	6.56	6.47	4.95	6.02	5.79	5.30
水痘	0.09	0.07	0.16	0.09	0.09	0.23
手足口病	0.05	0.07	0.07	0.07	0.12	0.05
伝染性紅斑	0.65	0.74	0.79	0.91	0.70	0.70
突発性発しん	0.21	0.19	0.12	0.37	0.28	0.35
ヘルパンギーナ	-	0.07	-	-	0.02	0.07
流行性耳下腺炎	-	0.05	0.07	0.05	0.09	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.20	0.30	0.10	0.20	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	46.95	31.26	17.52	16.76	13.21	10.42

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。